



町内における交通事故の発生傾向は？

～2019年の交通統計から～

長野県警察本部が公表している交通事故の統計から、発生状況などをまとめました。

近年の事故の傾向や町内のどこでこういった事故が起こっているのか知っていただき、多発箇所では特に安全運転を心がけましょう。



○人身事故の発生状況

・県内

平成16年の14,522件をピークに減少が続いており、令和元年は6,281件となっています。死傷者数も同様に減少傾向が続いており、直近の10年間で半数程度に減少しています。

・町内

事故件数は減少傾向が続いており、令和元年は47件でした。一方で直近の10年の死者数は年間0～3人となっており、大きな変化はありません。

○町内における交通事故の特徴

・人身事故

発生場所は国道153号バイパスが多く、特に「松島」～「木下南新町」信号付近で多発しています。また、広域農道、県道与地辰野線（西県道）、春日街道、県道伊那辰野線（竜東線）でも散見されます。事故形態別では追突が最も多く、交差点での出会い頭、歩行者を巻き込んだ事故、と続いています。

・物件事故

発生場所は商業施設駐車場が多く、道路上では幹線道路をはじめ交差点で多くなっています。事故形態別では単独事故が最も多く、交差点での出会い頭、追突と続いています。

夜光反射材を身に着けましょう

町では、役場、文化センター、各区公民館などの入口に貸出用の夜光反射タスキ（右写真）を用意しています。いつでもどなたでも自由にお使いいただけます。

2019年の県内の歩行者事故の傾向を見ていくと、事故は16～19時台に多く発生しており、夜間の道路横断中に多いことがわかります。また、歩行中に事故で亡くなった高齢者の多くが、自宅から500m以内の場所で事故に遭っていることがわかりました。

近所に出かける際にも反射材を積極的にご活用いただき、交通事故から身を守りましょう！

